

1. 単元名 マット運動

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

- ・マット運動は、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向へ転がったり、手や背中で支持しての逆立ちなどをしたりする運動である。
- ・支持、逆さ姿勢、回転など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動である。
- ・いろいろな動きに楽しく取り組み、自分の力にふさわしい動きを身につけたときに喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童から見た特性

運動の楽しみ方

- マットの上でいろいろな方向に転がったり、逆さになったりすることで日常と違った運動感覚を味わうことができる。
- グループの中での励まし合いや声かけによって、運動が楽しく感じる。
- 回転したり逆さになったりすることで恐怖を感じる。

学び方

- それぞれの場でいろいろな動きを練習することで、運動ができるようになる。
- どんな声をかけていいのかわからず、声をかけることができない。

技能

- いろいろな方向に転がることができる。
- 手や背中で体を支持することができる。
- 逆さになったり、回転したりするなど、自由に体を動かすことができる。
- 恐怖心やうまくできないなどのマイナスの思いから、運動を躊躇してしまう。

3. 児童の実態

男子15名、女子6名、計21名の学級である。

本学級の児童は、明るく素直で、何事にも前向きに取り組むことができる児童が多い。休み時間には、サッカーをしたり、ドッジボールをしたり、遊具を使って遊んだりしているが、遊び方が固定化されている傾向がある。

体力テストの結果から、運動能力には個人差があり、男子では、長座体前屈・シャトルラン・50m走・立ち幅跳び・ボール投げが県平均より劣り、女子では、握力・長座体前屈・シャトルラン・50m走が県平均より劣っている。しかし、体育の授業に対しては、どの運動領域においても、意欲的に取り組む児童が多く、友だちと協力して準備や片付けを行うことができる。また、互いの運動の様子を見て、励まし合うといった姿も見られる。

	男子	女子	合計
A	1	1	2
B	4	3	7
C	5	0	5
D	4	1	5
E	1	1	2

新体力テストの総合評価（2017）

○事前アンケートの考察

- ・「体を動かすことが好き」「いろいろな動きを経験できる」などといった理由から、体育が好きだと答えている児童が95.2%を占める。運動領域の中では、「ゲーム」が一番人気であり、「浮く・

泳ぐ運動」「体づくり運動」「跳の運動」も好きな児童が多い。

- ・マット運動については、33.3%の児童が「好きではない・あまり好きではない」と回答している。その理由としては、回転したり、逆さになったりすることに対する恐怖心や技に対する抵抗感などがあげられていた。
- ・学び合う活動については、85.7%の児童が肯定的な回答をしており、励ましの声かけやアドバイスが、自分だけでなく友達にもプラスに働くと考えている児童が多い。学び合いの視点を明確にし、運動量とのバランスがとれるようになると、今よりも効果的で深い学び合いが実現できると考える。

#### 4. 授業の構想と指導意図

##### (1) 基本的な考え方

低学年での「マットを使った運動遊び」では支持や逆さ姿勢、回転などの運動を楽しく行うとともに、基本的な動きや感覚を身につけてきた。それに対して、中学年の「マット運動」の目標は、「基本的な回転技や倒立技ができる。」である。低学年で身につけてきた動きや感覚をもとに、基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技の習得がねらいとなる。また、感覚作りや基本的な技に十分取り組んだ上で、技を繰り返したり、発展的な技に取り組みせたりもしていく。そして、単元を通して、一つ一つの技を身につける楽しさや、できるようになった技をより美しく行うことの楽しさを味わわせる授業にしていく。もちろん技ができるようになることも大切であるが、手のつき方や足の引きつけ方など、これからの学習に必要な点についても丁寧に指導し、高学年での学習につなげていくようにする。

マット運動を、運動の特性から見えていくと、体を回転させたり、逆さになったりと、頭が腰よりも低い姿勢になることが多い。しかし、人間は日常生活において、直立姿勢であり、頭は腰よりも高いところに位置する。つまり、マット運動では、日常生活の状態に反した姿勢や動きをとることになる。それに加え、現代の子どもたちは、室内でテレビゲームやカードゲームをして遊ぶことが増えてきているため、昔のように外で多様な遊びをすることが少なく、さまざまな運動感覚を味わう経験が乏しい。これらの要因から、「回転したり、逆さになったりする経験」の乏しい児童は、姿勢変化をしようとしたときに、自分のおかれている状況がわからなくなり、怖がったり、運動に対して抵抗感をもったりする。その抵抗感や恐怖感が運動を身に付けていく上で、とても大きな壁となる。そこで、授業の中に技に関連した様々な運動感覚づくりの時間を設けることで、マット運動が苦手な児童も自信をもって取り組めるようにし、全ての児童が自己の能力の向上を感じられるような授業を作っていく。

また、本単元では、練習を重ねていくうちに何となくできるようになるのではなく、児童が技の習得に必要なポイントを理解した上で、「わかってできる」ことをねらいとし、「知的な楽しさ」を感じられるよう構想した。マット運動の領域は、その特性から「できる」「できない」が顕著に表れる領域である。そのため、児童は技の完成にとらわれがちで、技の習得に必要なポイントにまで意識が及ばないことがある。しかし、マット運動の思考・判断には、「自己の能力に適した課題を持ち、技ができるようになるための活動を工夫すること」が書かれている。つまり、現在の自分の技能の状況から、本時の目標設定をすることやその課題に向けた場や活動の選択ができるように配慮することが必要である。そこで、学習カードを用いて技の仕組みを捉えさせたり、ペア学習を用いてお互いの課題の把握を行わせたりとさまざまな活動を仕組んでいった。

## (2) 単元の展開の工夫

### ア 感覚作りについて

日常の体育の授業の中では、低学年のうちから、逆さ感覚、腕支持感覚、回転感覚、バランス感覚、高さ感覚、柔軟性、リズム感などが身につく様々な動きを経験させて、基礎感覚づくりをすることが大切である。特に、マット運動の領域では、逆さ感覚、回転感覚、腕支持感覚について身につけさせる必要がある。そのため、毎時間準備体操後、以下の感覚作りを行った。感覚作りを行う際には、すでに運動感覚が身についている児童も意欲的に取り組めるよう、適宜感覚作りの難易度を上げたり、競争要素を取り入れたりする工夫をした。

- ・かえる倒立    ・背支持倒立    ・かえるの足うち    ・ブリッジ
- ・馬跳び    ・手押し車    ・うさぎとび    ・ゆりかご

また、ゆりかごタイムとして、ゆりかごにさまざまなバリエーションを取り入れ、十分に回転感覚を身につけることができるようにした。ゆりかごタイムの内容は以下の通りである。児童にポイントがわかりやすいよう、小さなゆりかご、中くらいのゆりかご、大きなゆりかごを設定し、意識して運動ができるようにした。

- ①小さなゆりかご（体育座りでゆりかご）
  - ②中くらいゆりかご（後ろに転がったときに手をつく→後転につなげる）
  - ③大きなゆりかご（背支持倒立から足を引きつけたゆりかご）
- ※中くらいと大きなゆりかごは、手を前に出し、しゃがみ立ちを目指す。

これらの感覚作りを指導する際には、単なる準備運動として位置づけるのではなく、体の状態、着手の仕方、足の引きつけ方などを教師から意図的に声かけすることで、技のポイントの一部であることを意識させた。

### イ 学び合い（言語活動）について

単元の前半では、自分の課題を確認する時や友達にアドバイスをする時に、児童自らが学習カードを用いて行えるよう指導した。まず、技のポイント一つ一つを教師が実際に見せながら取り上げることで、児童が学習カードを見て、自分で技の仕組みを理解できるようにした。他にも、技の練習に入る前には、学習カードの技の展開図に、自分ができていないポイントがわかるよう印をつけさせ、いくつかあるポイントの中から自分の課題を焦点化させた。こうした工夫により、各自の練習の時間になっても、児童が主体となって課題に向かって取り組む様子が見られた。また、授業の終わりには、自分の技の出来栄を4段階で評価し、現在の自己の能力の把握ができるようにした。これらの活動を通して、マット運動の連続した動きの中で、部分的にポイントを意識することが、技の成功に近づいていくことを感じさせられるのではないかと考えた。

できているところには×を、できていないところには○を付けさせる。



しかし、児童がマット運動をしながら客観的に自分の課題を把握するという事は困難であるため、その手立てとして「ペア学習」を取り入れた。グループではなく、あえてペアでの活動にすることにより、運動量を確保するとともに、一人ひとりの役割を明確にすることができると考えたからである。練習前に学習カードを用いて、お互いの課題を共有し合い、練習している様子をペアに見てもらふことで、お互いの課題を見取ることができたり、技の出来栄を評価し合ったりすることができる。また、課題を見取る際には、一つずつ確実にポイントをクリアしていけるよう、見取りのポイントを一つに絞らせた。ペアでの声かけについても、ほめ合ったり、はげまし合ったりするだけでなく、技のポイントとなる言葉を入れながら行えるよう指導を行った。

### ウ 場の工夫について

マット運動の思考・判断の観点では、自分の力に応じた練習方法や練習の場を「選ぶ力」も必要になる。今回の授業でも、段階ごとに高低差を利用したり、目印となるものを取り入れたりし、さまざまな場を設定した。また、場の一つとして「タブレットの場」を設け、自分の試技の様子を自分で確認できるような工夫も取り入れた。タブレットでは、「設定した時間分遅れて再生される」アプリを使用した。このアプリでは、必要に応じて一時停止や巻き戻しもできるため、部分的にできているかどうかを自分の目で確認することができる。このタブレットを定点カメラのように設置しておくことで、教師や児童がタブレットの操作にかかる時間が少なくなり、運動量を確保することができると考えた。



友達からのアドバイスを受けながら、自分の動きと学習カードのポイントを確認している様子



### (3) マット運動の系統について

学年	1・2年	3・4年	5・6年
運動の領域	器械・器具を使つての運動遊び 「マットを使った運動遊び」	器械運動 「マット運動」	器械運動 「マット運動」
主な学習内容	○マットに背中や腹などをつけていろいろな方向へ転がって遊んだり、手や背中で支持しての逆立ちなどをして遊んだりする。	○基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技ができるようになる。	○基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技が安定してできるようになるとともに、その発展技をできるようにする。

## 5. 単元の目標

- (1) マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。 **【関心・意欲・態度】**
- (2) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫することができるようにする。 **【思考・判断】**
- (3) 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。 **【技能】**

## 6. 評価規準

	運動の関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。</li> <li>・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力にあった課題を選んでいく。</li> <li>・基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分に合った練習方法や練習の場を選んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット運動では、自分に合った基本的な回転技や倒立技を行うことができる。</li> </ul>
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①技ができるようになるために、運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②運動のきまりを守り、自分の試技を見てもらったり、アドバイスをしたりしながら技の練習をしようとしている。</li> <li>③役割を決め、友達と協力して、マットの準備や片付けをしようとしている。</li> <li>④安全に気を付け、マットや用具などの安全を確かめて練習をしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①動き方や技のポイントを知り、自分に合った課題を選んでいく。</li> <li>②自分の能力に合った練習の場や練習方法を選んでいく。</li> </ul>	<p><b>【基本的な回転技を行うことができる。】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①滑らかな前転を行うことができる。</li> <li>②滑らかな後転を行うことができる。</li> </ul> <p><b>【基本的な倒立技を行うことができる。】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③両手をついて体を持ち上げ、横とびこしをすることができる。</li> <li>④両手で体を支えて、壁を使って逆立ちをすることができる。</li> </ul>

7. 単元の指導計画

時	主な学習活動	態度	思・判	技能	教師の関わり・支援
第一時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方，約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <p>4 めあての確認 技のポイントを知り，「前転」ができるようになる ろう ・前転の仕方やポイントを理解する。</p> <p>5 前転を練習する。</p> <p>6 技の出来栄を評価する。</p> <p>7 片付け</p> <p>8 振り返り</p>	③	観察	① 観察	<p>※学習のねらいと進め方を説明し，見通しをもって，学習に取り組めるようにする。</p> <p>※準備運動を通して，様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返し行えるようにする。</p> <p>※なんとなくできるのではなく，「わかってできる」ことが重要であることを伝える。</p> <p>※学習カードを使い，意識するポイントを確認したり，ポイントを踏まえた声かけができるようにしたりする。</p>
第二時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方，約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <p>4 めあての確認 技のポイントを知り，「後転」ができるようになる ろう ・後転の仕方やポイントを理解する。</p> <p>5 後転を練習する。</p> <p>6 技の出来栄を評価する。</p> <p>7 片付け</p> <p>8 振り返り</p>	④	観察	② 観察	<p>※安全に効率よく用具を準備する。</p> <p>※準備運動を通して，様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返し行えるようにする。</p> <p>※なんとなくできるのではなく，「わかってできる」ことが重要であることを伝える。</p> <p>※学習カードを使い，意識するポイントを確認したり，ポイントを踏まえた声かけができるようにしたりする。</p>
第三時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方，約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <p>4 めあての確認</p>				<p>※安全に効率よく用具を準備する。</p> <p>※準備運動を通して，様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返し行えるようにする。</p>

	<p>技のポイントを知り、「腕立て横跳び越し」ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>腕立て横跳び越しの仕方やポイントを理解する。</li> </ul> <p>5 腕立て横跳び越しを練習する。 6 技の出来栄を評価する。 7 片付け 8 振り返り</p>	③ 観 察	③ 観 察	<p>※なんとなくできるのではなく、「わかってできる」ことが重要であることを伝える。</p> <p>※学習カードを使い、意識するポイントを確認したり、ポイントを踏まえた声かけができるようにしたりする。</p>
第四時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方、約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <p>4 めあての確認 技のポイントを知り、「壁倒立」ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>壁倒立の仕方やポイントを理解する。</li> </ul> <p>5 壁倒立を練習する。 6 技の出来栄を評価する。 7 片付け 8 振り返り</p>	④ 観 察	④ 観 察	<p>※安全に効率よく用具を準備する。</p> <p>※準備運動を通して、様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返して行えるようにする。</p> <p>※なんとなくできるのではなく、「わかってできる」ことが重要であることを伝える。</p> <p>※学習カードを使い、意識するポイントを確認したり、ポイントを踏まえた声かけができるようにしたりする。</p>
第五時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方、約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <p>4 めあての確認 技のポイントを意識して、挑戦技を上達させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挑戦技の意識するポイントを確認する。</li> </ul> <p>5 挑戦技を練習する。 6 技の出来栄を評価する。 7 片付け 8 振り返り</p>	① 観 察	① 観 察	<p>※安全に効率よく用具を準備する。</p> <p>※準備運動を通して、様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返して行えるようにする。</p> <p>※あと少しでできるようになりそうな技やもっと上達させたい技を各自選択し、挑戦技とする。</p> <p>※技の系統ごとにペアを作る。</p> <p>※学習カードを使い、意識するポイントを確認したり、ポイントを踏まえた声かけができるようにしたりする。</p>
	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方、約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p>			<p>※安全に効率よく用具を準備する。</p> <p>※準備運動を通して、様々な運動感覚を身につけるための運動</p>

第六時 本時	<p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム (マットの上で)</p> <p>4 めあての確認 技のポイントを意識して, 挑戦技を上達させよう。 ・挑戦技の意識するポイントを確認する。</p> <p>5 挑戦技を練習する。</p> <p>6 技の出来栄を評価する。</p> <p>7 片付け</p> <p>8 振り返り</p>	② 観 察	② 観 察	<p>を繰り返し行えるようにする。 ※あと少しでできるようになり そうな技やもっと上達させた い技を各自選択し, 挑戦技とす る。 ※技の系統ごとにペアを作る。 ※学習カードを使い, 意識するポ イントを確認したり, ポイント を踏まえた声かけができるよ うにしたりする。</p>
第七時	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方, 約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操 短時間で効率よく行う。</p> <p>3 準備運動 ○感覚作り ○ゆりかごタイム (マットの上で)</p> <p>4 めあての確認 練習してきた技を発表しよう。</p> <p>5 発表する技を練習する。</p> <p>6 発表会を行う。</p> <p>7 片付け</p> <p>8 振り返り</p>	③ 観 察	① ② ③ ④ 観 察	<p>※安全に効率よく用具を準備す る。 ※準備運動を通して, 様々な運動 感覚を身につけるための運動 を繰り返し行えるようにする。 ※練習してきた技の中で, みんな に発表したい技を練習する。 ② ※子どもたち同士の肯定的な評 価につながるよう, 声かけを行 う。</p>

※単元を通して, 学習カードによる児童の見取りを行っていく。

#### 8. 本時の学習 (全7時間の第6時間)

(1) 日時 平成29年 8月 30日 (水) 13:50~14:35

(2) 場所 松里小学校体育館

(3) 本時のねらい 技のポイントを理解した上で, 自己の能力に適した技をできるようにする。

(4) 展開

	学習内容と活動	教師の関わりと評価
はじめ 15分	<p>1 用具や場の準備・健康観察 学習活動の進め方, 約束ごとなどを知る。</p> <p>2 準備体操</p> <p>3 準備運動 ・かえる倒立 ・背支持倒立 ・かえるの足うち ・ブリッジ ・うさぎとび ・手押し車</p>	<p>○安全に運動ができるように用具を準備する。</p> <p>○動きが雑にならないように, ていねいに取り組ませる。</p> <p>○短時間で効率よく行う。</p> <p>○必要に応じて, 運動の難易度を上げたり, 競争要素を取り入れたりすることで, 意欲的に取り組めるようにする。</p>





○ゆりかごタイム (マットの上で)

- ・小さなゆりかご
- ・中くらいのゆりかご  
→後転につなげる。
- ・大きなゆりかご  
→足の引きつけを意識する。



○技との関連を意識させるための声かけを行う。



○ゆりかごを行う際には、かかとを尻に引きつけることと体を丸くすることを意識させる。

○中くらいと大きなゆりかごは、起き上がるときに手を前に出し、しゃがみ立ちをめざす。(できるペアについては、互いの両手でタッチすることを促す。)

なか  
25分

4 めあての確認をする。

技のポイントを意識して挑戦技を上達させよう。



5 自分の挑戦技を練習する。

(着手の仕方を見取る様子)



○前時までの学習の中で、上達させたいと思う技を各自決定し、今日の挑戦技とする。

○前半4時間の練習をもとに、自分の挑戦技のどのポイントができていないのかを明確にし、練習に入る前にペアで共有させ、お互いの課題をわかった上で練習に入らせる。

※取り組む技の系統ごとにペアを作る。

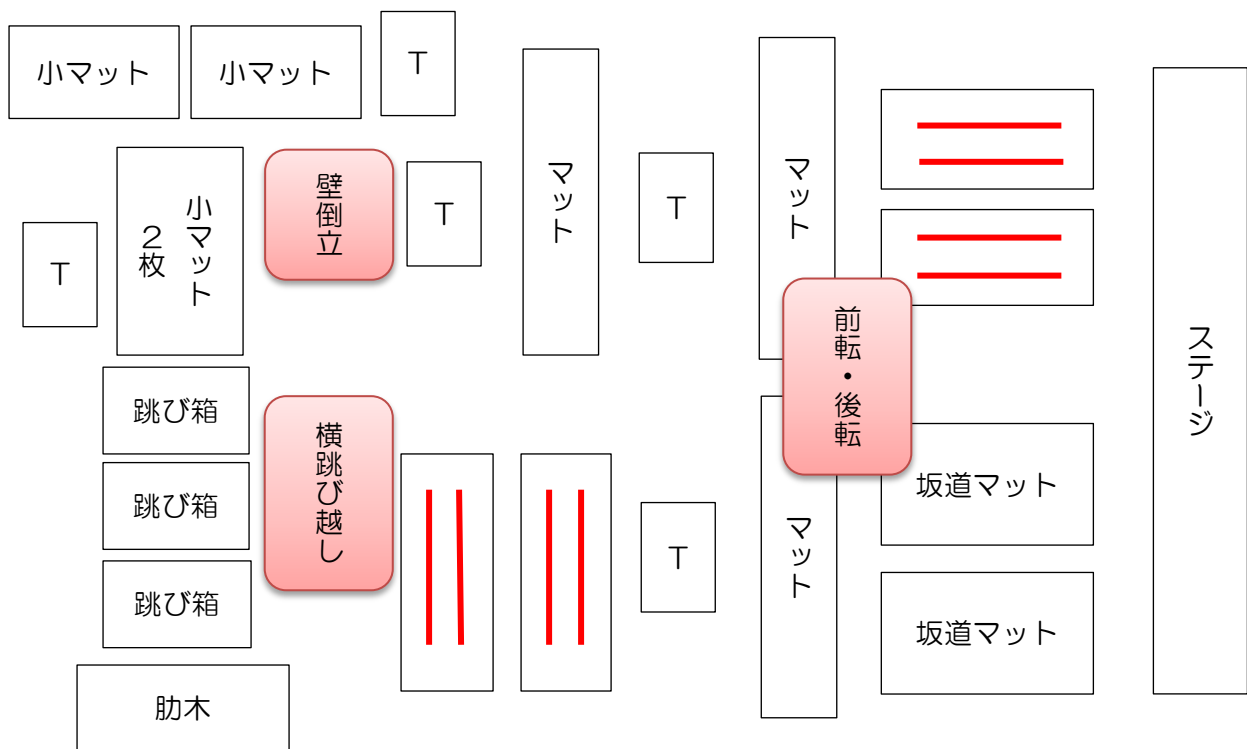
○なんとなくできるのではなく、「わかってできる」ことが重要であることを伝える。

○ペアの練習を観察する際には、ポイントを1つに絞り、見る位置にも気をつけさせる。

○タブレットを使う際には、その使用が目的ではなく、見取りのツールとして使うことを意識させる。

	<p>(跳び箱を使って腰を高くあげる練習)</p>  <p>6 挑戦技の出来栄を評価する。</p> 	 <p><b>関</b> 運動のきまり守り，自分の試技を見てもらったり，アドバイスをしたりしながら技の練習をしようとしている。</p> <p><b>思</b> 自分の能力に合った練習の場や練習方法を選んでいる。</p> <p>○最後にできるようになったことを認め合う場面をつくる。</p> <p>○技ができるようになったことではなく，ポイントを一つずつクリアできたことを認め合えるようにする。</p>
<p>おわり 5分</p>	<p>7 片付け 8 振り返り</p>	<p>○全員で協力して，安全に効率よく後片付けをするように声をかける。</p>

○本時の場の設定 (Tはタブレット)



9. 児童の実態の変化〈事後アンケート・技のチェック表より〉

Q マット運動は好きですか。

→前回「あまり好きではない・好きではない」と答えていた7名児童のうちの5名が「好き・大好き」と回答していることから、今回の実践を通して、少なからずマット運動に対する恐怖心や苦手意識を軽減することができたと考える。

Q マット運動についてどんなことを考えますか。

→各項目に、若干の変化はあるが、「難しい技があること」については半数近くになっている。発展技に取り組む児童もいた中で、技のポイントを知り、確実に「できる」ようになっていったことにより難しいと感じる児童が減少したと思われる。

Q 学び合いが好きな理由はなんですか。

→学び合いが好きな理由については、前回よりも技のポイントや上達について触れている児童が増えており、学級のリレーションを高めることに加え、技の上達に向けた学び合いができていた児童が多かった。

基本技の習得率 55.9% → 85.7%  
(3・4の評価を習得とする。)

事前		基本技				発展技					事後		基本技				発展技				
番号	前転	後転	横跳び越し	壁倒立	開脚前転	開脚後転	側方倒立回転	頭倒立	補助倒立	番号	前転	後転	横跳び越し	壁倒立	開脚前転	開脚後転	側方倒立回転	頭倒立	補助倒立		
1	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	3	4	3	3	1	3	1	1	3		
2	3	4	2	4	2	3	3	1	4	2	4	4	3	4	4	4	4	2	4		
3	3	3	3	4	2	3	3	1	4	3	3	3	3	4	3	4	4	4	4		
4	1	2	1	1	1	1	1	1	1	4	4	2	2	1	1	1	2	1	1		
5	3	3	2	2	1	1	1	2	3	5	4	3	3	3	3	1	1	3	3		
6	3	3	2	4	2	2	3	3	3	6	3	4	3	4	3	4	4	3	3		
7	2	1	1	1	1	1	1	1	1	7	3	2	1	1	1	1	2	1	1		
8	2	2	2	1	1	1	1	2	1	8	4	4	3	3	1	4	1	2	4		
9	3	3	2	2	1	1	1	1	1	9	4	3	3	3	1	2	1	1	3		
10	3	3	2	3	1	3	1	1	3	10	3	3	3	3	3	3	3	3	4		
11	3	3	3	4	2	3	3	1	4	11	3	3	3	4	3	3	4	2	4		
12	3	3	3	4	2	3	3	2	4	12	3	4	3	4	4	4	3	4	4		
13	4	4	2	4	3	3	3	3	4	13	4	3	4	4	4	4	4	4	4		
14	3	3	3	3	2	3	3	2	4	14	4	3	3	3	3	4	3	3	4		
15	3	3	2	3	3	3	2	2	3	15	3	3	3	3	4	3	3	3	4		
16	4	3	3	4	2	3	3	4	4	16	4	3	3	4	4	3	4	4	4		
17	3	3	3	3	2	3	3	3	2	17	3	3	3	4	3	4	3	4	4		
18	2	2	2	1	1	1	1	1	1	18	3	3	3	4	1	1	3	2	4		
19	3	1	1	1	1	1	1	1	1	19	4	4	2	2	1	3	1	1	3		
20	2	1	1	1	1	1	1	1	1	20	3	2	2	2	1	1	1	1	1		
21	3	2	2	1	1	1	1	1	1	21	3	3	3	1	3	1	1	1	1		

1…要練習 2…あと少しで習得 3…概ね習得 4…ポイントを全てクリアしている

## 10. 授業の成果と課題について (成果○ 課題▲)

### 授業のねらいについて

- ただひたすらに練習するのではなく、今の自分の能力をさまざまな手立てで把握し、そこから頭で考えたことを、体でできるよう工夫している児童の姿が見られた。
- 児童が学び合いの場面で、具体的に「どこができていて」「どこができていないのか」話し合ったり、タブレットを用いて確認し合ったりしていた。
- 運動をしている最中に、自分の動きを意識するという事は難しいが、学習カードやタブレットを活用することにより確認できていた。

### ア 感覚作り・場の工夫について

- 感覚作りについては、マット運動の技に必要な要素を含んだ運動を取り入れることができおり、児童を待たせることもなくスムーズに進めることができた。
- 児童の欲求に対応した安全な場が設定されており、全ての児童が自分の課題に向かって主体的に活動することができた。

▲感覚作りから技へとつながる意識づけとなるような声かけが少なかった。

### イ 技の習得について

- 4年生としての基本的な技は概ね習得できたと思う。(85.7%)
- ワークシートを使い、自分の意識する技のポイントに焦点をあてさせた上で活動させたことにより、多くの児童が個々の能力に応じた技を習得することができていた。

### ウ 技能を高めるための効果的な言語活動について

- 技の系統別ペアでの学習を取り入れたことで、場を行き来する時間も少なく、技のポイントを意識した学び合いを進めることができた。
- 教師がその場になくても、教師の声かけや学習カードのポイントをヒントに児童が主体となって学習を進めることができていた。
- タブレットについては、その利用に執着するのではなく、本実践のねらいである「わかってできる」ための学びあいのツールとして活用することができていた。
- 児童一人ひとりの課題が絞られており、目的意識を持って取り組んでいた。
- ▲児童によっては、学習カードに書かれているポイントを理解しきれていない児童もいたので、できる児童による「感覚的な声かけ」も有効であると感じた。

## 11. 参考文献

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ・小学校学習指導要領解説 体育編        | 文部科学省 東洋館出版社    |
| ・器械運動指導の手引き             | 文部科学省           |
| ・小学校体育まるわかりハンドブック (中学年) | 文部科学省           |
| ・マット運動の指導のポイント 内田雄三編    | 岡田和雄・村上紀子著 日本標準 |
| ・マット運動の授業               | 大修観書店           |
| ・みんなの体育 (3・4年)          | 学研              |
| ・マット運動の習熟課程             | 明治図書            |